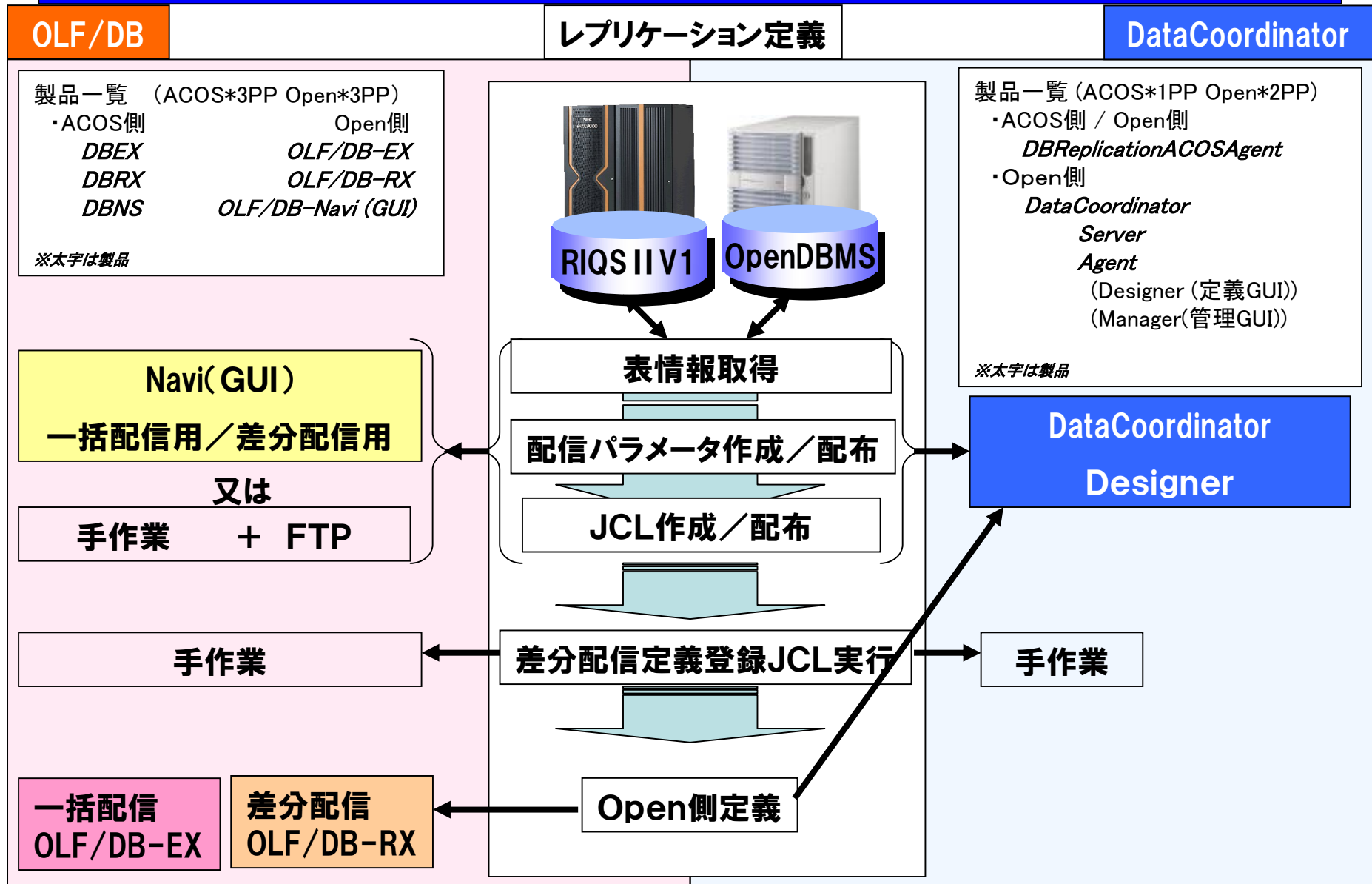
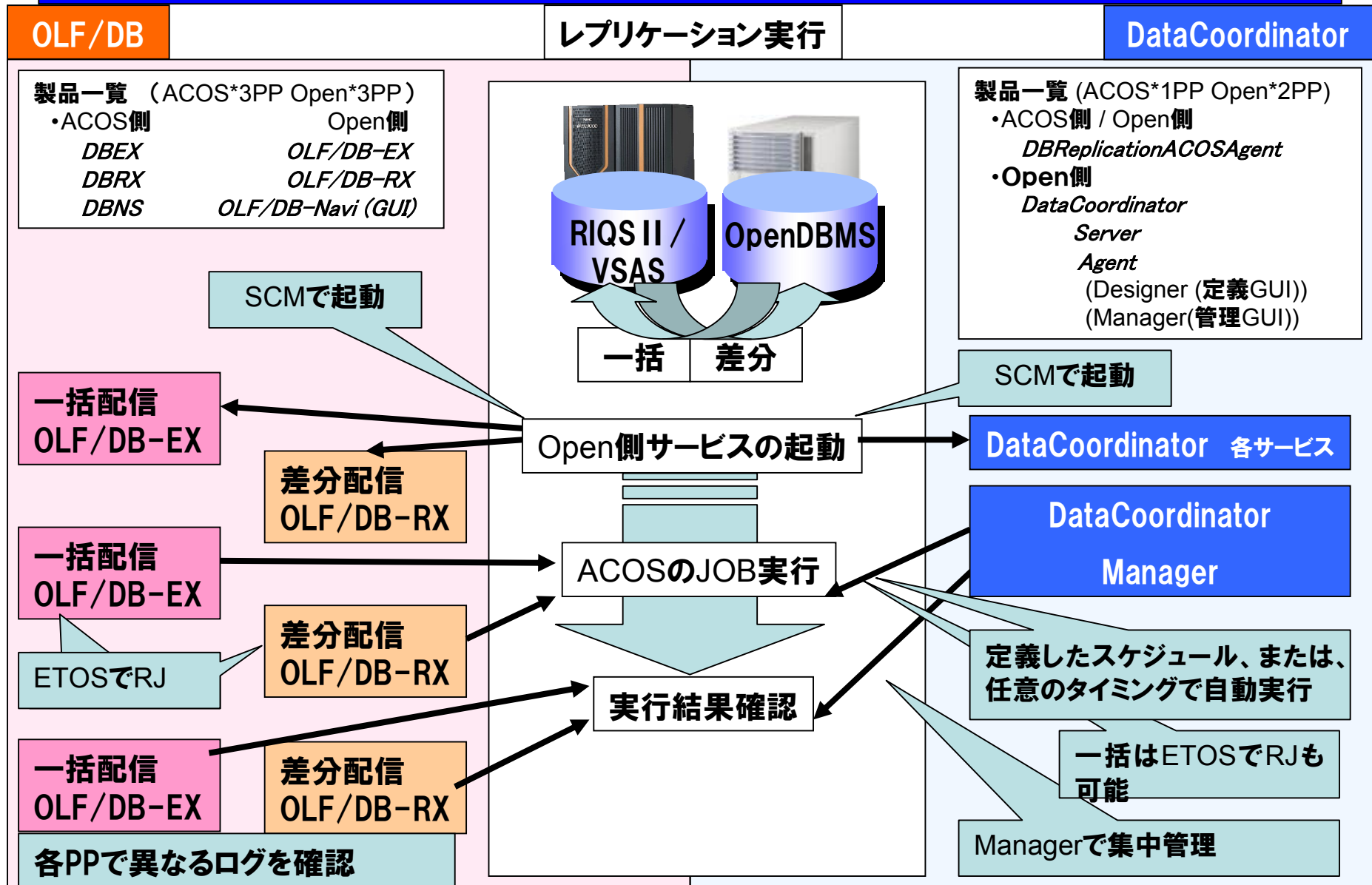


OLF/DB製品とDataCoordinatorの違い①

～定義～



OLF/DB製品とDataCoordinatorの違い② ~実行~



OLF/DB製品とDataCoordinatorの違い③ ～その他～

	OLF/DB製品	DataCoordinator
データ加工	加工はできない	各種データ加工が可能 複雑な加工処理向けにAPIを提供
1:N N:1	マスタ表、レプリカ表は1:1でデータ配信	複数表とのデータ連携が可能 ・マスタ1表→レプリカ複数表 ・マスタ複数表→レプリカ1表
OS DBMS 拡充	OS、DBMSの拡大予定なし OS ACOS-2/ACOS-4/Windows/HP-UX/Linux(EXのみ) DBMS RIQS II V1,V2/Oracle/SQLServer/DB2/RedBrick(EXのみ) その他 VSAS(RXのみ)、ACOSのSEQファイル(EXのみ)	対応OS、DBMSが多彩、更に拡大予定 OS ACOS-4/Windows/Linux/HP-UX/Solaris DBMS RIQS II V1,V2/Oracle/SQLServer/DB2/PostgreSQL/MySQL その他 VSAS/GSVファイル/XMLファイル

OLF/DB製品とDataCoordinatorの違い ～まとめ～

まとめ

	OLF/DB製品	DataCoordinator
価格	<p>一括配信、差分配信、導入支援機能は、すべて個別PPデータ連携を楽に行うには、導入支援(OLF/DB-Navi)、一括配信(OLF/DB-EX)、差分配信(OLF/DB-RX)のそれぞれ個別の製品導入が必要。</p> <p>差分配信には、別途下記製品が必要(下記はDataCoordinatorも同じ)</p> <p>RIQS II /RF (ACOSのRIQS II マスタ)</p> <p>RIQS II /XR (ACOSのRIQS II レプリカ)</p> <p>VSAS/RF (ACOSのVSASマスタ)</p>	<p>DataCoordinator導入のみで、一括/差分/GUIがすべて利用可能(連携対象サーバ、DBMS毎にAgentの購入が必要)</p> <p>Open側 DataCoordinator Server DataCoordinator Agent (OS毎、DBMS毎)</p> <p>ACOS側 DBReplicationACOSAgent (一括/差分等の機能を1製品複数LMで提供)</p> <p>※VSAS/RFは必須、RIQS II /RF、RIQS II /XRはRIQSの差分配信で必須</p> <p>※OLF/DB製品に比べて、全機能導入する場合は低価格</p>
定義	<p>一括、差分個別に定義が必要</p> <p>ACOSに関しては、起動JCL、配信パラメータ等の連携定義などを手書き必要</p> <p>Open側はACOSの定義と自動で連携しないため、定義者が目視で確認しながらの定義が必要。(支援ツール、チェック機能あり)</p> <p>支援ツールとして別製品でNaviがあり、簡略化は可能</p>	<p>定義GUI(DataCoordinator Designer)で連動してACOS側Open側の定義が可能</p> <p>定義後のACOS側JCLの雛形や配信定義ファイルを、自動で配布。簡単な修正でJOB実行が可能</p>
コード変換	<p>外字コードの変換</p> <p>OLF/DB-EXは、Oracle版Ver5.0、Microsoft SQL Server版Ver6.0、RedBrick版Ver2.0から、OLF/DB-RXは初期バージョンから、ETOS-JXの変換テーブルを使用しJIPS-SJISのコード変換が可能、JIS2004対応未定</p>	<p>外字コードの変換</p> <p>ACOSとOpenDBMSとを連携する場合、JIPS→SJIS→JDBC(UTF-8)→OpenDBMSのロケールに格納</p> <p>ETOS-JXの変換テーブルを使用しJIPS→SJISのコード変換が可能</p> <p>Open→Openの場合はJIS2004対応済み。</p>
スケジュール	<p>一括/差分ともに、ACOS側JOB実行で抽出から反映まで実施。一括配信の場合、任意のタイミングで自動実行とする場合はTOMなどのジョブ管理ツールで実行スケジュールが必要</p> <p>差分の場合は、インタバルによる転送タイミングのみ指定可能(常時連携する)</p>	<p>定義GUI(DataCoordinator Designer)により、開始日、実行曜日、実行時間(終日指定あり)など、多彩なスケジュールが可能</p>
実行	<p>一括はACOSのジョブ実行により、抽出から反映までが行われる</p> <p>差分配信の場合は、更新差分は常に出力され、常駐ジョブで監視して、差分データがあるときは転送処理から反映処理まで行われる</p>	<p>Open側で定義したスケジュールに従い、Open側主導で連携される</p> <p>一括処理は、スケジュールに従い、ACOSのジョブを自動実行する</p> <p>ACOS側のジョブ実行を契機に連携を行うことも可能</p> <p>差分配信は、マスタからの抽出処理はOLF/DBと同じ</p> <p>但し、レプリカへの反映はスケジュール定義に従って、反映処理が行われる</p>
データ圧縮	<p>OLF/DB-EX(一括処理)</p> <p>ACOS 側抽出ファイルへ出力する処理で、圧縮/非圧縮の指定が可能。</p> <p>圧縮処理による抽出性能(OPU 効率)の劣化、転送性能の向上を考慮した上で、圧縮/非圧縮の方式を決定することが重要</p>	<p>一括処理ではOLF/DB製品と同じ指定が可能</p>
結果確認	<p>各製品のACOS側のJOR/実行結果/コンソールMSG、Open側の各種ログファイル、イベントログ、SYSLOGを確認する必要がある。(ACOS側のエラー/Open側のエラーは、それぞれ相手にエラーがあったことは通知する)</p>	<p>実行結果の確認など、運用監視のGUIで集中監視が可能。(必要な時にACOSのJOR/CONSOLEを確認)</p>